

## 「サイエンスデイ in 気仙沼」にて講座を開催しました（2015/9/6）

テーマ：災害研究，防災教育

URL：[https://science-community.jp/event/science\\_day/science\\_day\\_detail.php?science\\_day\\_id=11](https://science-community.jp/event/science_day/science_day_detail.php?science_day_id=11)

9月6日（日）に，宮城県気仙沼市にて，「学都『仙台・宮城』サイエンスデイ in 気仙沼」が開催されました。「学都『仙台・宮城』サイエンスデイ」は，科学や技術の「プロセス」を子どもから大人まで五感で感じられる場づくりを目指して，仙台市内で2007年から毎年開催されている体験型・対話型の科学イベントです。今年度は，「科学で地域が見える」をコンセプトに，それぞれの地域の様々な特色を活かしたイベントとして，宮城県内6エリアで開催することとなりました。今年度の第1弾は，気仙沼エリアを対象とした「サイエンスデイ in 気仙沼」として気仙沼市中央公民館と気仙沼市魚市場を会場にして開催されました。

当研究所では，「災害を科学するー東北大研究者によるやさしい自然・人文・社会科学講座ー」と題して5件の講座を行いました。イベント全体では小学生などの子どもの参加が多いのに対して，多くの大人の方々にも参加いただけただけでなく，和室の座布団の上でアットホームな雰囲気の中に行うことができ，質疑も活発なものとなりました。当研究所では，気仙沼市に「東北大災害科学国際研究所 気仙沼サテライト（分室）」を設置しています。今後も地域と密着した活動を実施していきます。当講座は，第7回防災文化講演会（当研究所主催）としても開催され，佐藤翔輔助教がコーディネーターをつとめました。また，当日はのべ85名ご参加いただきました。各講座のタイトルは，次のとおりです：

「災害を科学するー東北大研究者によるやさしい自然・人文・社会科学講座ー」

「災害のカガク」ってナニ？ 佐藤翔輔（情報管理・社会連携部門 助教）

気仙沼の土地はどうやってできた？-気仙沼大川がはこぶ砂と泥-

丹羽雄一（災害理学研究部門 助教）

地面をほって発見する、おおむかしの地震と津波 石村大輔（災害理学研究部門 助教）

2004年インド洋津波から10年：今はどうなっている？気仙沼もこうなる？

サッパシー・アナワット（災害リスク研究部門 准教授）

気仙沼の「災害の歴史」をさぐる 川島秀一（人間・社会対応研究部門 教授）



佐藤翔輔助教



丹羽雄一助教



石村大輔助教



サッパシー・アナワット准教授



川島秀一教授



会場の様子

文責：佐藤翔輔（情報管理・社会連携部門）